

# 特定外来生物のアライグマに注意！

顔の黒いマスク



尻尾の縞模様

中山間地域研究センター

金森弘樹・竹下幸広・澤田誠吾・金澤紀幸

# アライグマ問題とは



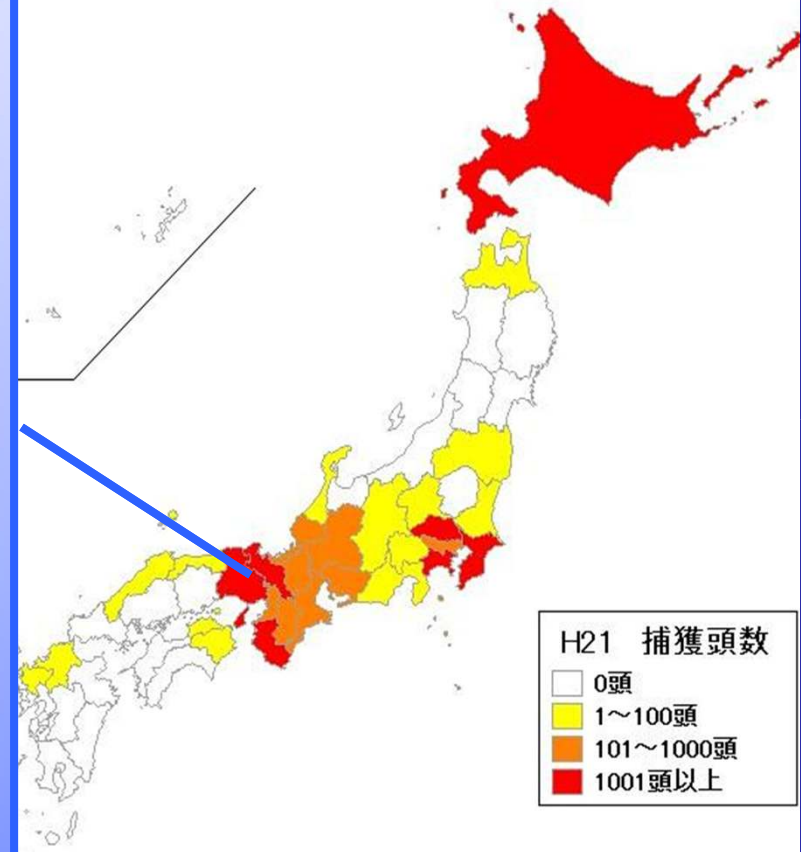
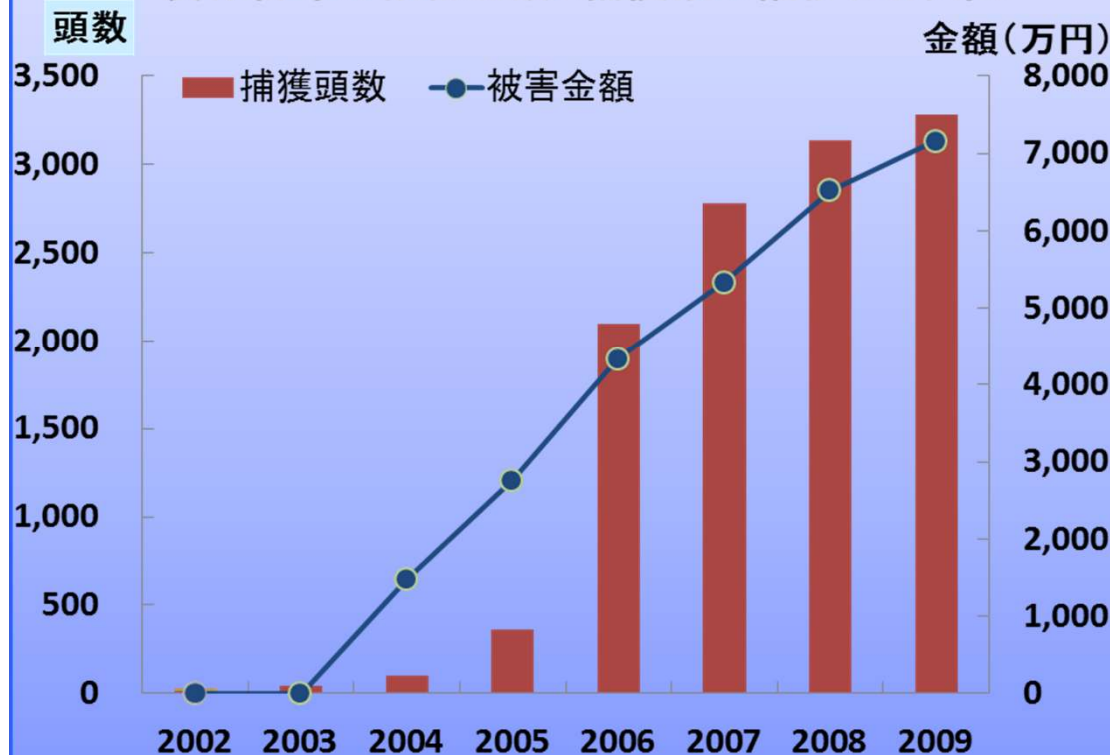
1980～2000年頃  
に数万頭をペット  
として輸入

- 放逐・逃亡によって全国で野生化
- 在来の自然生態系へ多大な悪影響
- 2005年「特定外来生物」に指定(外来生物法)
- 人獣共通感染症のアライグマ回虫を媒介

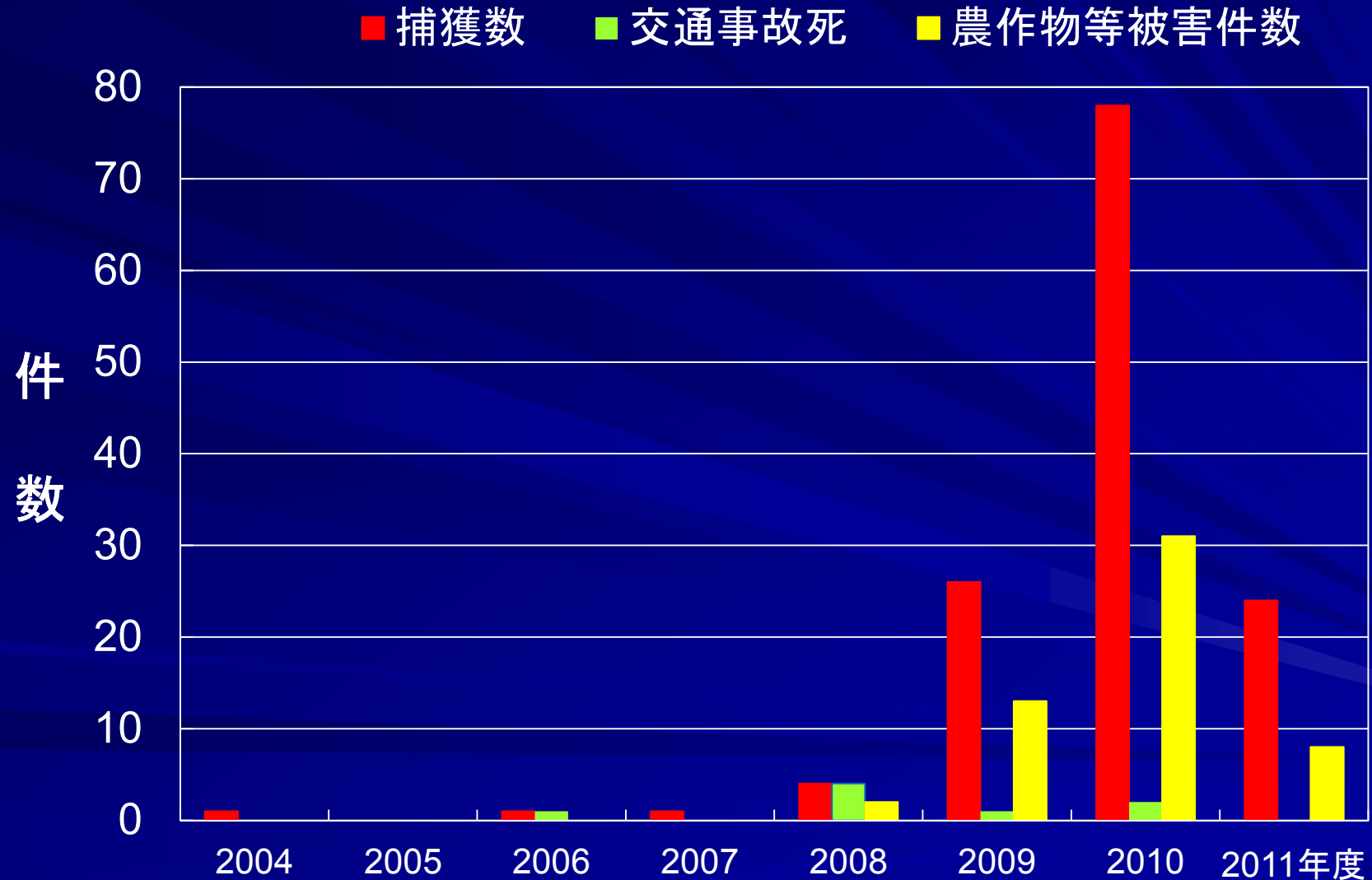
# 全国のアライグマの捕獲状況

- 北海道、関東、近畿地方（和歌山県・**兵庫県**など）を中心に数千頭の捕獲。
- 中国地方では**島根県**、鳥取県で数十頭レベルの捕獲

農作物等の被害金額と捕獲数の推移（兵庫県）



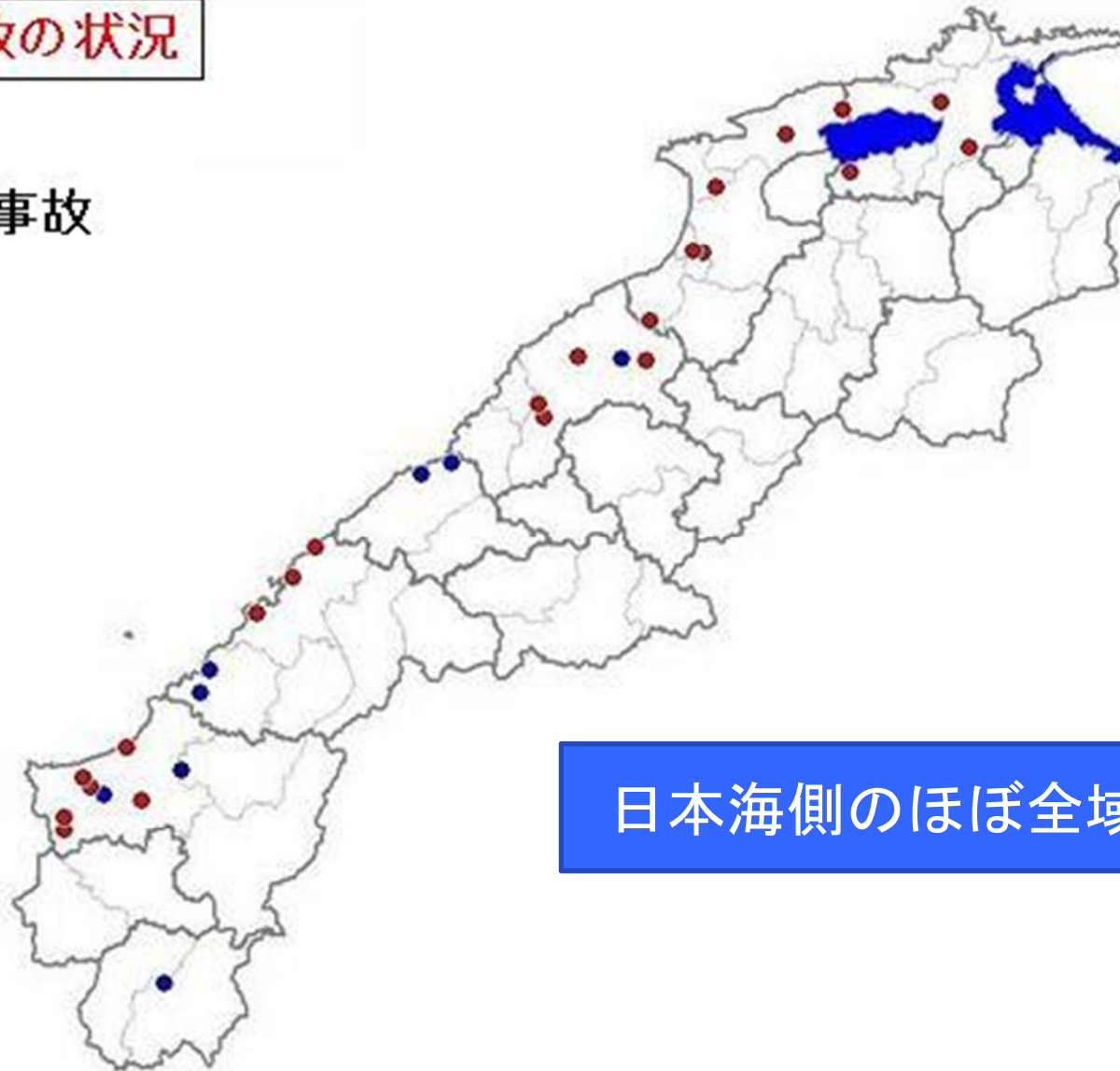
# 島根県における捕獲・交通事故死 ・農作物被害件数の推移



# アライグマの目撃・交通事故死個体の情報

## 目撃・交通事故の状況

- 目撃
- 交通事故



日本海側のほぼ全域に分布

# アライグマの被害発生・捕獲個体の情報

## 被害・捕獲の状況

- 捕獲
- 被害

2010年に  
金魚の食  
害が発生

捕獲は益田  
市に集中



# 益田市と津和野町での捕獲理由（被害）

## H21年度

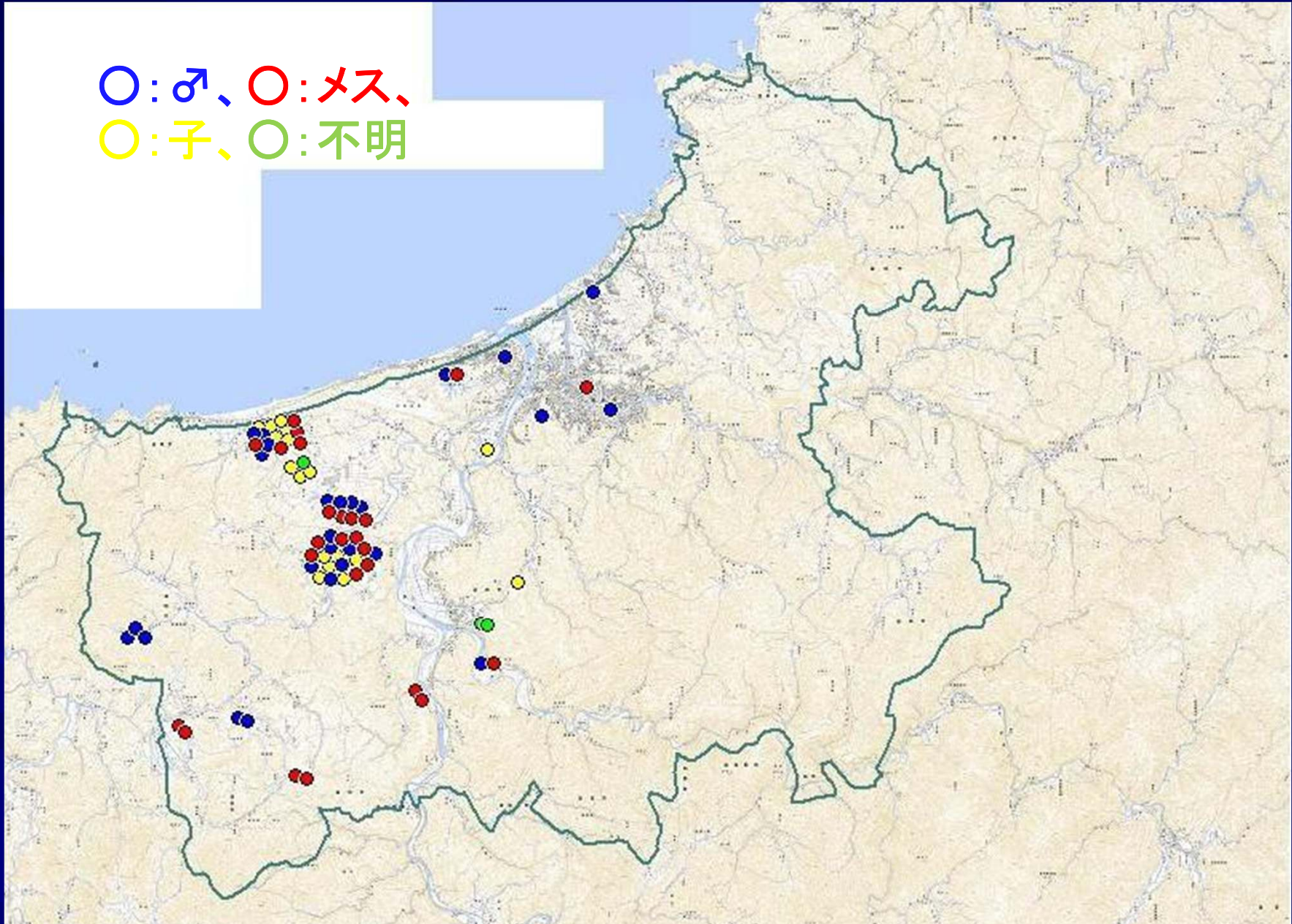
被害	捕獲数
ブドウ	16
ペットフード	3
カキ	3
水稻	1
住宅地出没	1
交通事故	1

## H22年度

被害	捕獲数
倉庫内家畜飼料	20
ブドウ	17
神社侵入	7
住宅地出没	6
民家のコイ	6
畑の掘り返し	3
家屋被害（住居侵入、糞尿）	3
トウモロコシ、キュウリ等	2
金魚	2
水稻	2
倉庫内荷物	2
カキ	1
ペットフード	1
狩猟	1

# 益田市での捕獲場所

○:♂、○:メス、  
○:子、○:不明





# 2010年度の捕獲効率 (CPUE)

2.0頭／100ワナ・日 (TN)



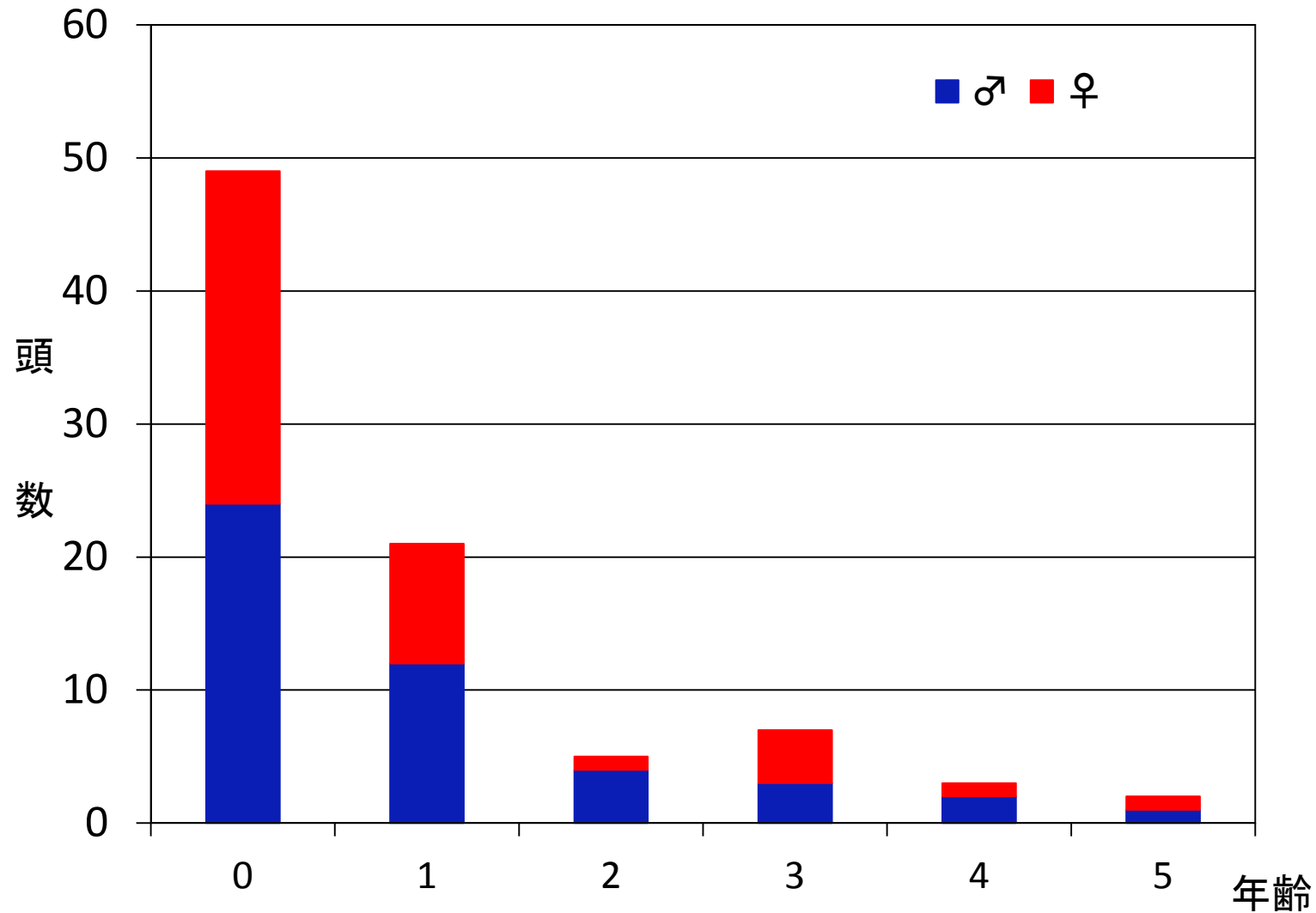
北海道防除指針(2009)に当てはめると、捕獲地域(益田市)は**中密度地域**(1～2頭／km<sup>2</sup>)



旧益田市(約300km<sup>2</sup>)には、**300～600頭**は生息か？

# 捕獲個体の年齢構成（2008-2010年度）

平均年齢：♂0.9歳、♀0.8歳



# 妊娠率と胎児数

- 7か月齢以上の16頭の**妊娠率は82%**。
- 1歳では3~5(平均**4.0**)頭、2~5歳は3~7(平均**5.1**)頭を出産。



子宮内の胎盤痕(6月1日  
捕獲、5歳)



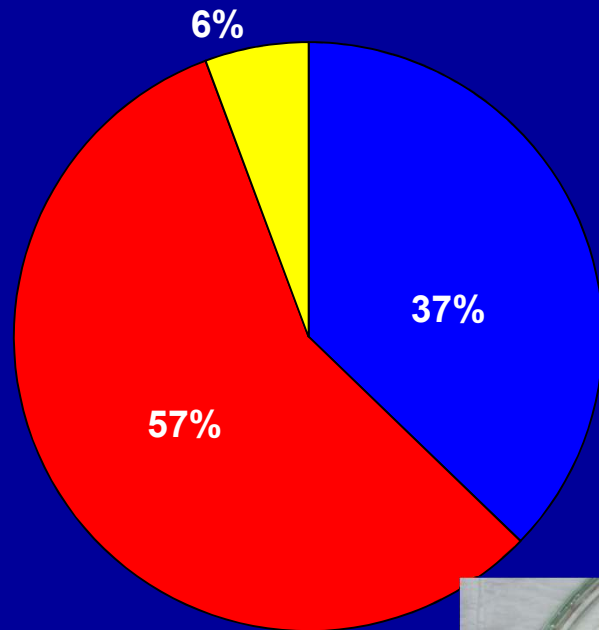
子宮内の胎児(3月7日捕獲、0歳)



# 胃内容物の占有率

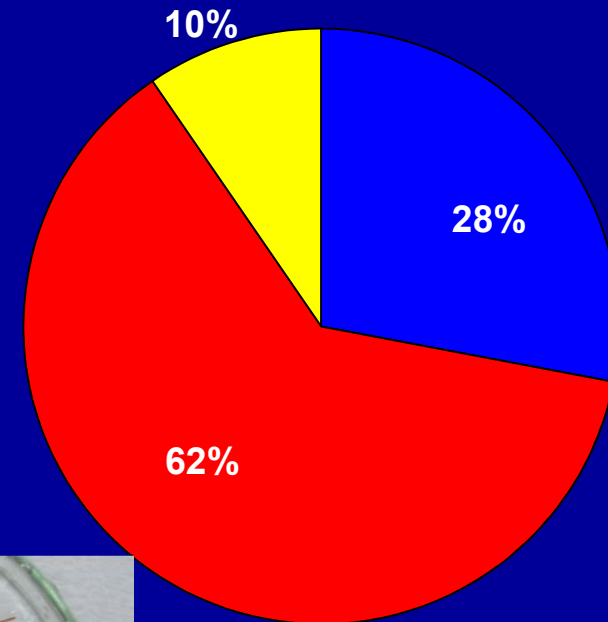
春夏期(4~9月)

■ 動物質 ■ 植物質 ■ その他



秋冬期(10~3月)

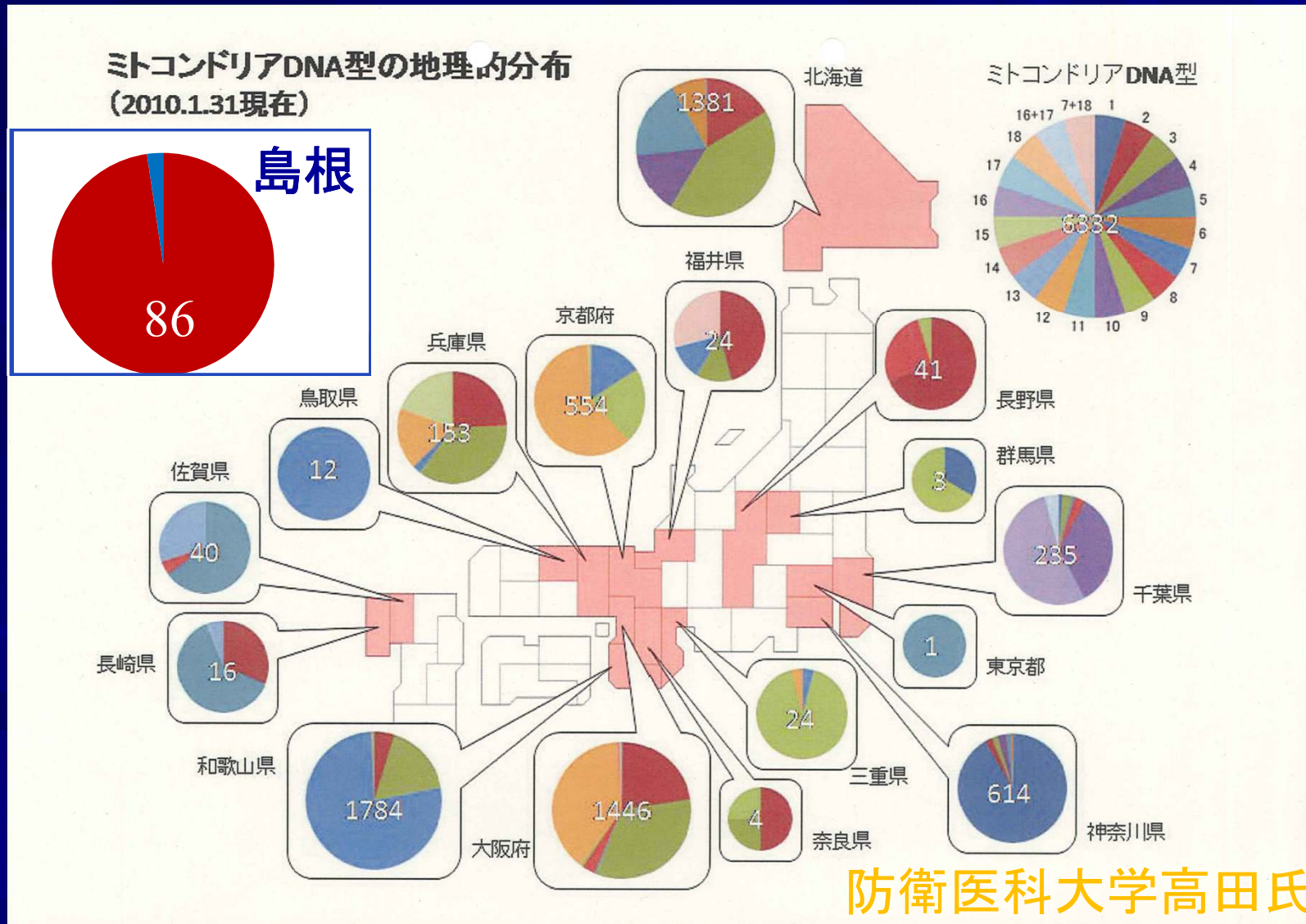
■ 動物質 ■ 植物質 ■ その他



ブドウ(7月、ブドウ園で捕獲)

# ミトコンドリア遺伝子の分析

- 86頭が8型(大阪に多い)、2頭が7型(京都、和歌山、鳥取に多い)であった(防衛医科大学高田助教に分析依頼)。



# 寄生虫調査（山口大学佐藤教授へ分析依頼）から分かったアライグマ回虫保有の有無と捕食動物

- アライグマ回虫（人獣共通感染症）の検出はなし。
- 浅田棘口吸虫4頭・・・ドジョウ
- 毛細線虫12頭、壺型吸虫幼虫2頭・・・カエル
- Euryhelmis costaricensis* 11頭・・・サンショウウオ
- 高橋吸虫18頭・・・淡水魚
- 鉤頭虫幼虫20頭・・・昆虫または小動物
- Eumegacetes lanni* 1頭・・・昆虫または小動物

# 現在の捕獲の取り組みと今後の課題

①新しい爪痕の多い神社やその付近の水辺(池、河川)などにカゴワナを設置→益田市では1神社で7頭を捕獲。

②島根県では、2011年度から第10次鳥獣保護事業計画を変更することによって、狩猟免許を持たない住民も捕獲(ヌートリアも)が可能。



今後は、低密度地域(出雲地域など)での捕獲方法の確立が必要。

# 今後の島根県におけるアライグマ対策

- 各市町村の**捕獲体制の整備**。
- 一般市民からの生息情報などによる**積極的な捕獲**の推進。
- **一般住民も捕獲**に参加。
- 繁殖力(年50%)が高いことから、生息数の少ないうちの**早期の徹底した捕獲**。



**島根県からアライグマの根絶を目指そう！**